

長崎大学学内保育所設置検討のためアンケート調査報告書

はしがき

男女共同参画推進センターでは、男女共同参画を推進し、全教職員が働きやすくワークライフバランスのとれた環境にするために様々な支援を行っています。

両立支援部門（現ワークライフバランス推進部門）では、昨年度（平成 25 年 10 月）に、「長崎大学学内保育所設置検討のためのアンケート調査」を実施しました。この調査は、長崎大学学内保育所設置検討の必要性を知ることを目的に行ったものです。

保育所設置については平成 23 年 7 月 19～29 日にアンケート調査を実施しましたが、回答者が 179 名と少なかったため、今回、再度調査を実施致しました。

本報告書は、1894 名（男性 740 名、女性 1154 名）の教職員の皆様から頂きました回答をまとめたものです。是非多くの教職員の皆様にお読みいただきたいと存じます。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

平成 26 年 8 月

長崎大学男女共同参画推進センター

両立支援（現ワークライフバランス推進）部門長 大石和代

【アンケート調査の概要】

1. 調査タイトル

長崎大学学内保育所設置検討のためのアンケート調査

2. 目的

長崎大学学内（文教キャンパス）の保育所設置に関して、教職員にどのようなニーズや意見があるか調査し、保育所設置の必要性について検討するための資料を得ることを目的とする。

3. 対象者

全教職員（非常勤を含む）

4. 実施期間

平成 25 年 10 月 15 日（火）～10 月 31 日（木）

5. 方法

Web および封書により全教員に一斉送信し、Web あるいは封書により回答する（無記名）。

6. 回答者数

1894 名（封書での回答者 1678 名、Web での回答者 216 名）

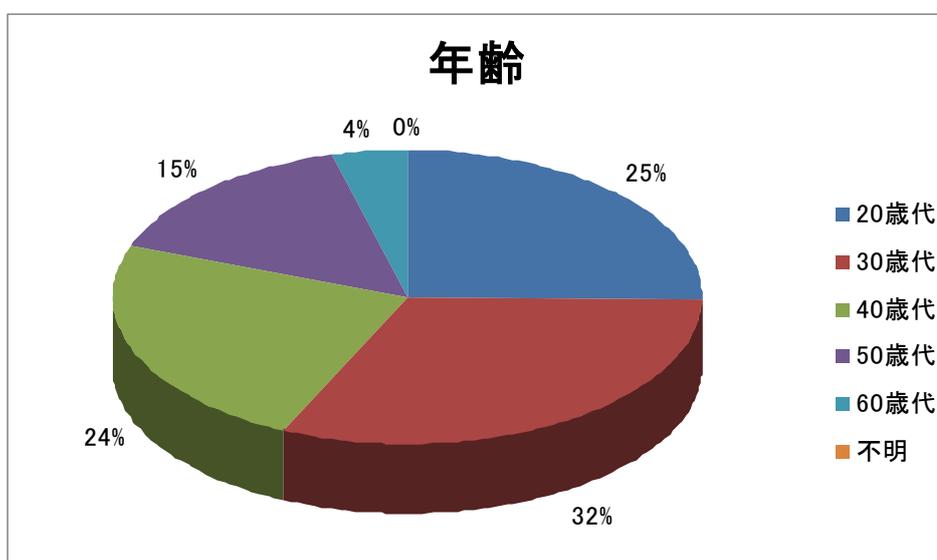
【結果・分析】

1. 調査回答者の属性

調査の回答者は 1894 名（封書での回答者 1678 名、Web での回答者 216 名）であった。回答者 1894 名について分析した。

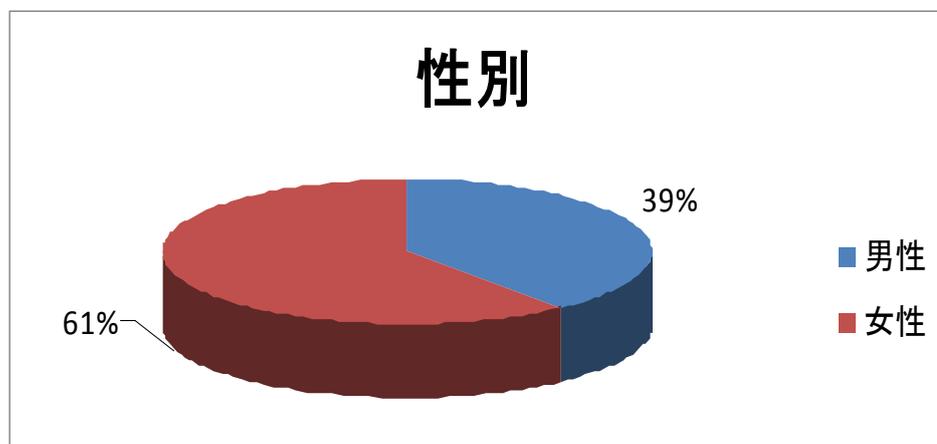
1) 年齢

30 歳代が 599 名(32%)と最も多く、次いで 20 歳代が 479 名(25%)で、40 歳代が 449 名(24%)で、20～40 歳代で全体の 8 割以上(81%)を占めていた。



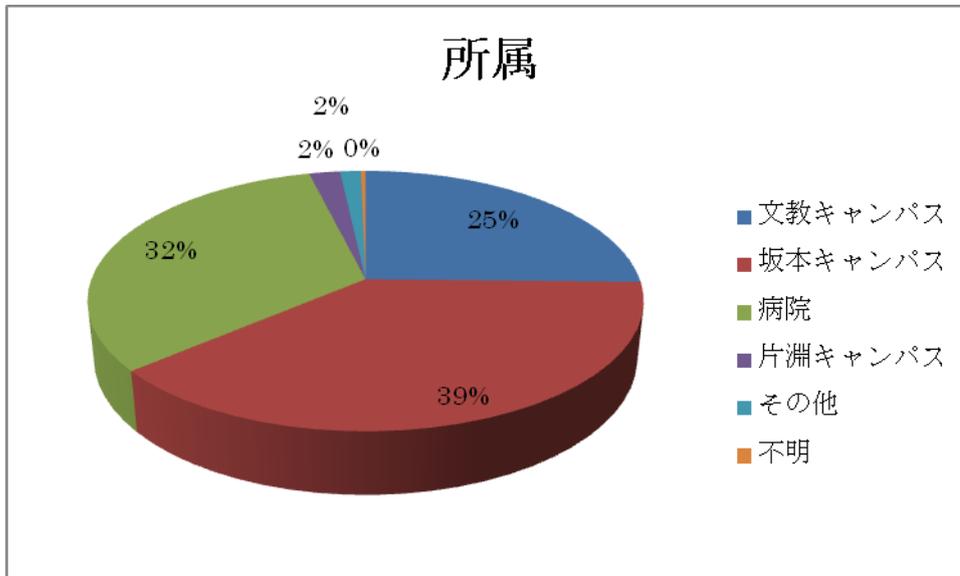
2) 性別

男性が 740 名(39%)、女性が 1154 名(61%)で、女性からの回答が圧倒的に多くなっていた。



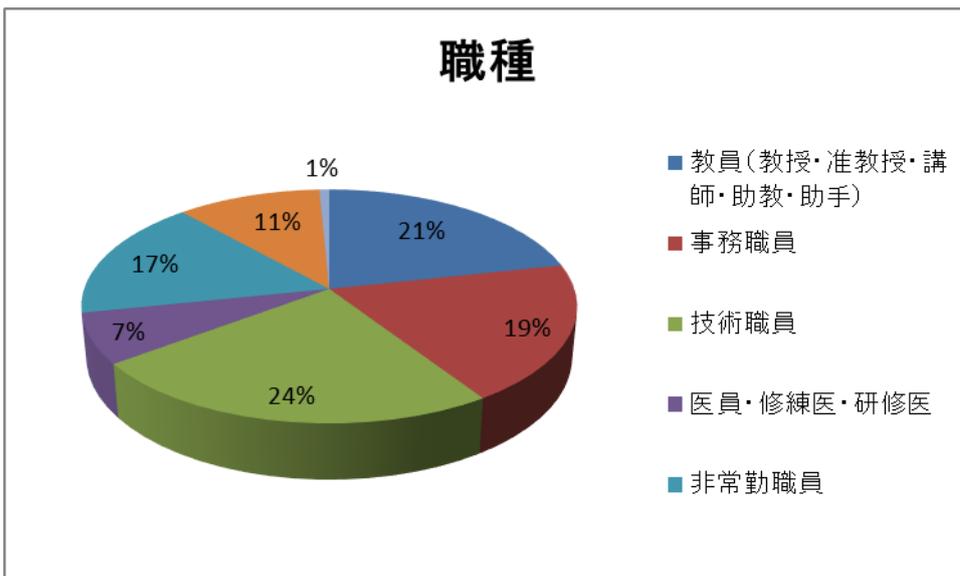
3) 所属

文教キャンパス 480 名(25%)、坂本キャンパス 728 名(39%)、病院 613 名(32%)、片淵キャンパス 40 名(2%)であった。



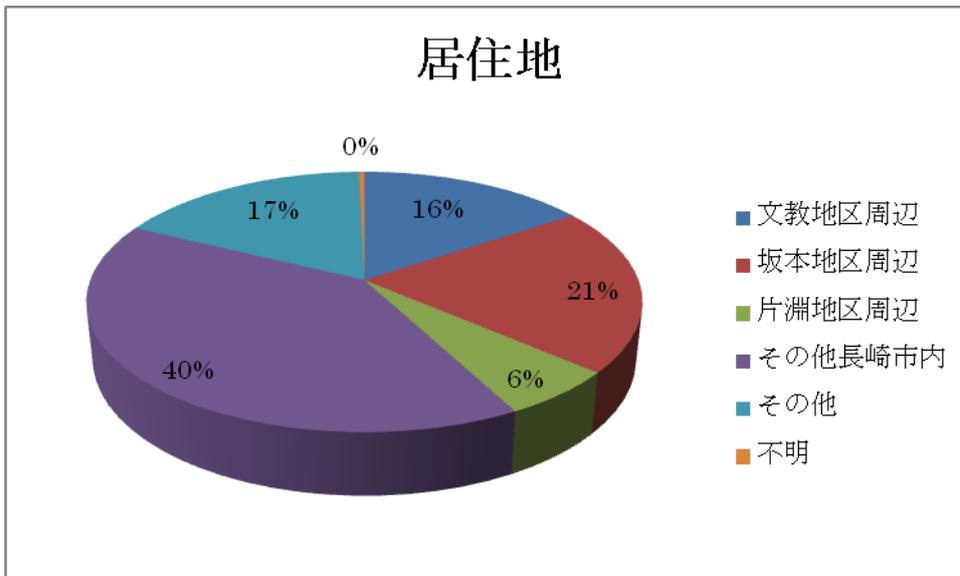
4) 職種

技術職員が 455 名(24%)で最も多く、次いで教員（教授・准教授・講師・助教・助手）409 名(21%)、事務職員 363(19%)であった。非常勤職員からの回答も 315 名(17%)あった。



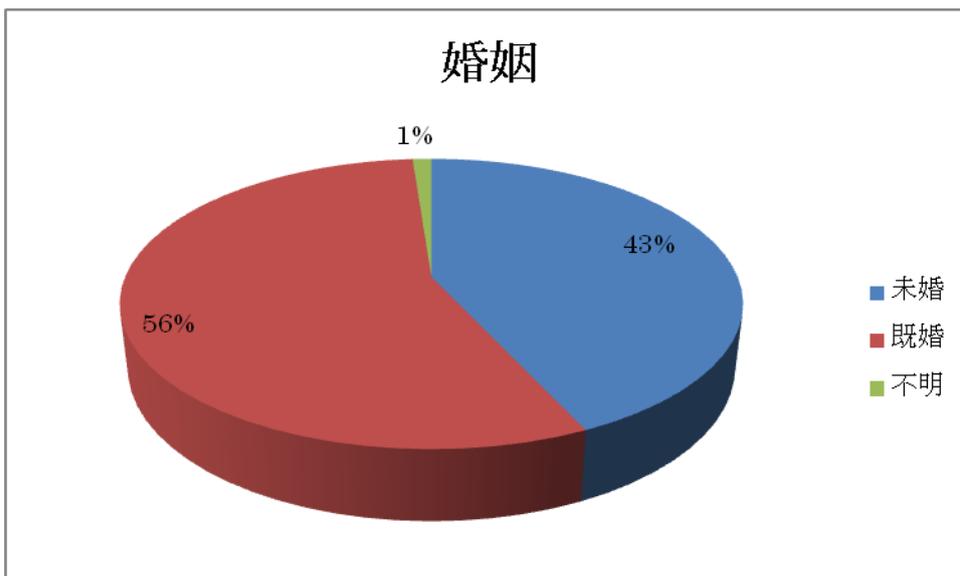
5) 居住地

居住地では、坂本地区周辺 393 名 (21%)、文教地区周辺 295 名(16%)、片淵地区周辺 112 名(6%)であった。758 名(40%)は坂本地区・文教地区・片淵地区周辺以外の長崎市内に居住していた。また、長崎市外居住地は 329 名 (17%) であった。



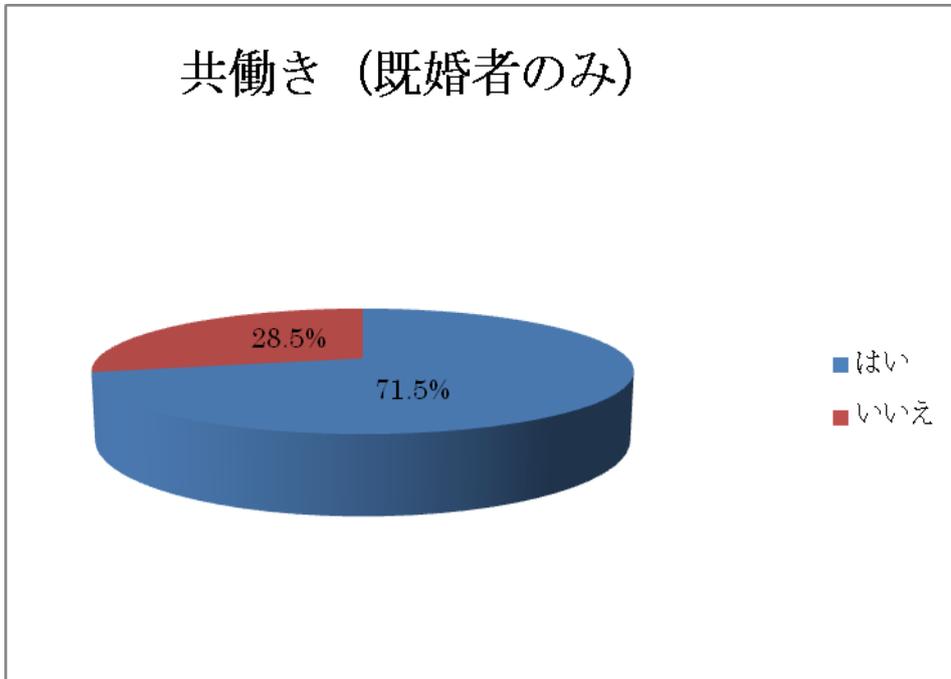
6) 婚姻

婚姻状態は、既婚 1055 名(56%)、未婚 817 名(43%)で、既婚者が 1 割程度多かった。



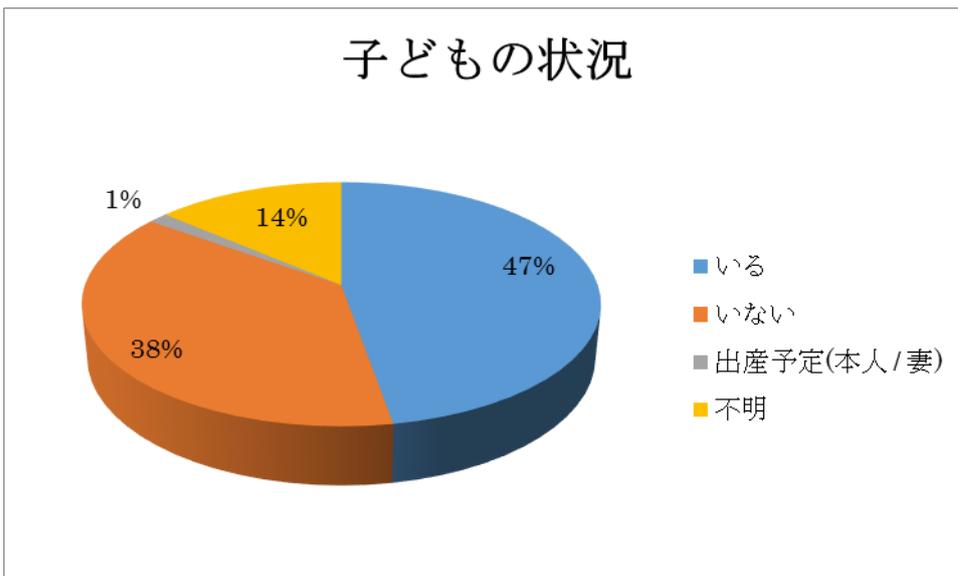
7) 共働きの有無

既婚者の7割以上（782名：71.5%）が共働きであった。



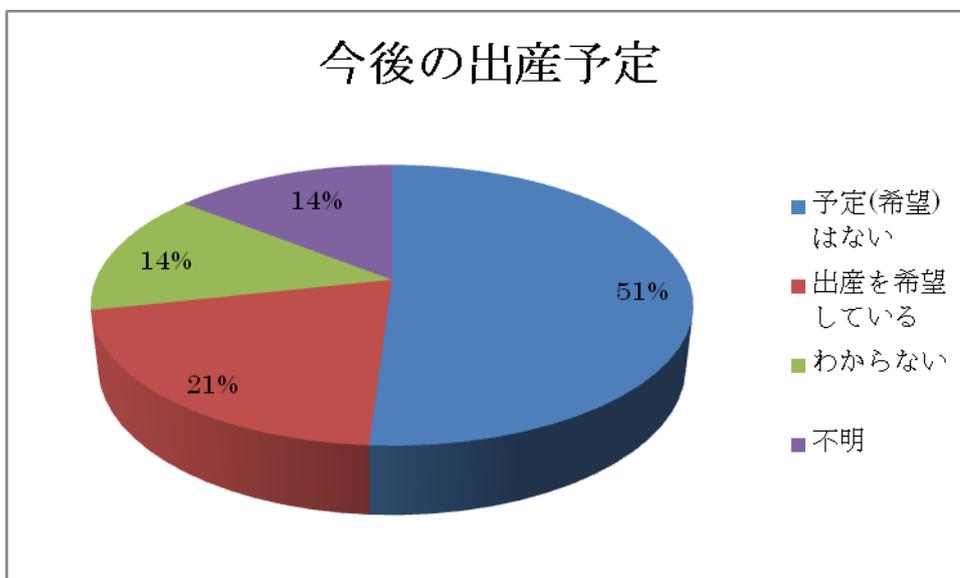
8) 子どもの状況

子どもがいる者 895名(47%)、いない者 713名(38%)であった。本人または妻が出産予定の者は 27名(1%)であった。（未回答 259名）



9) 今後の出産予定

今後の出産予定では、966名（51%）が出産の予定（希望）はないと回答したが、389名（21%）が今後の出産を希望していた。

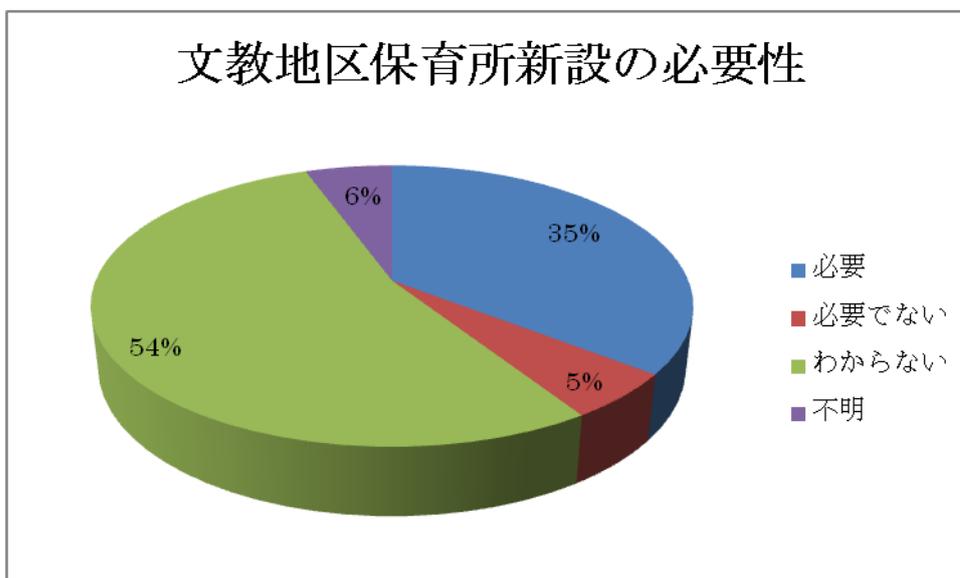


2. 文教地区保育所新設について

回答者全員（1894名）について分析した。

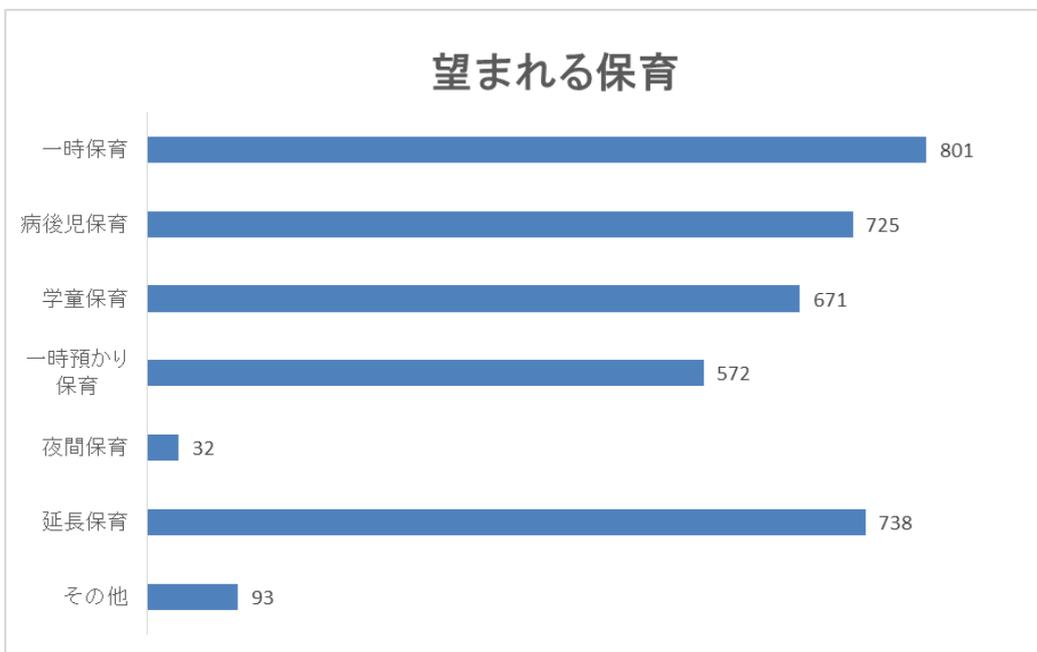
1) 保育所新設の必要性

文教地区に保育所新設が必要と答えた者は673名(35.5%)であり、必要でないと答えた101名(5.3%)を大きく上回っていた。回答者の半数（1015名：54%）はわからないと回答していた。



2) 望まれる保育について（複数回答）

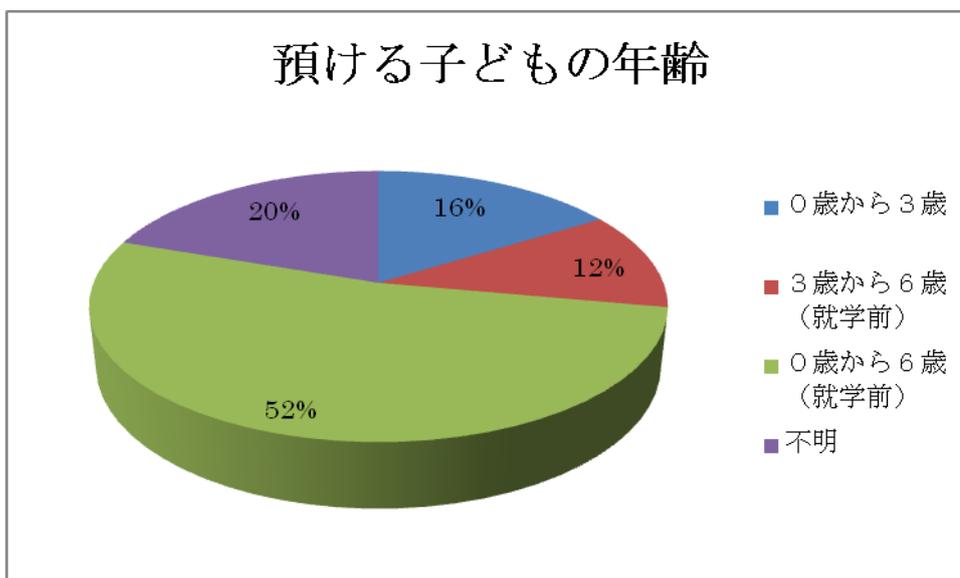
文教地区保育所には、一時保育(801名)、延長保育(738名)、病後児保育(725名)、学童保育(671名)、および一時預かり保育(572名)を希望する者が多かった。夜間保育を希望した者も32名いた。



3) 預ける子どもの年齢

保育所に預ける子どもの年齢では0歳から6歳（就学前）を希望する者が半数以上（992名：52%）であった。

0歳から3歳を希望する者は306名（16%）、3歳から6歳（就学前）を希望する者は222名（12%）であった。

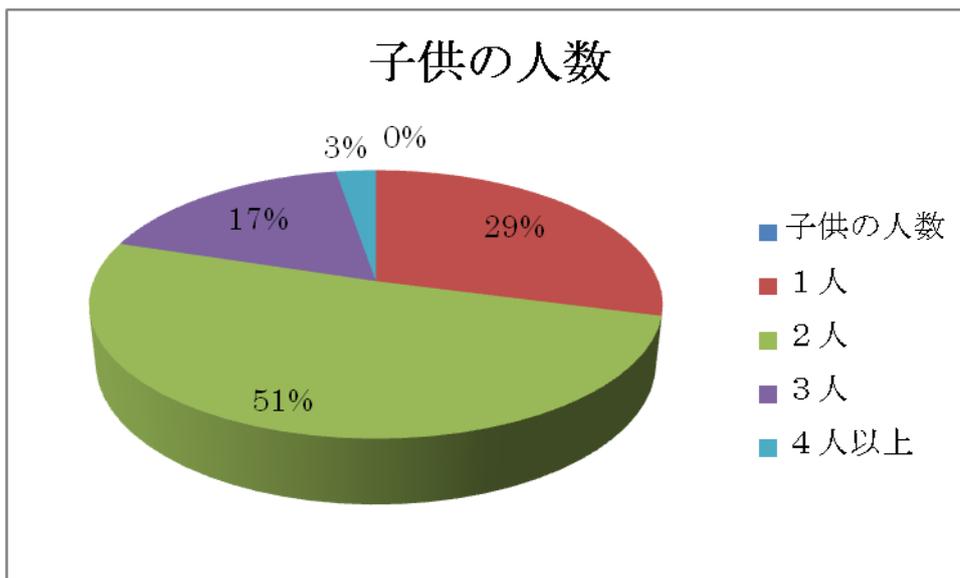


3. 現在の子育て状況

現在、子どもがいると回答した 790 名について分析した。

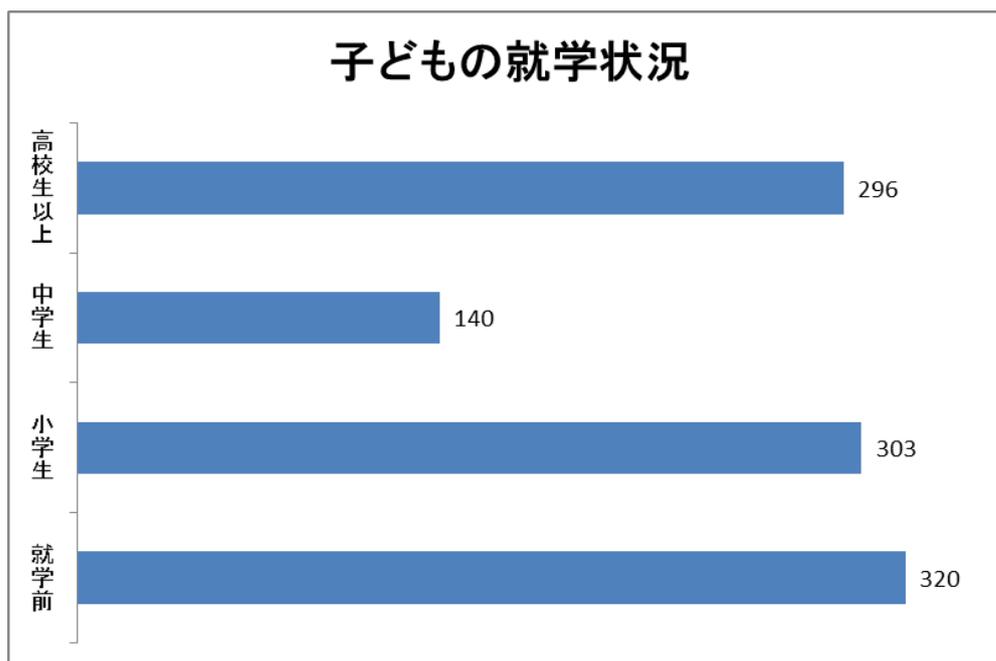
1) 子どもの人数

子どもの数は 2 人が 401 名(51%)で最も多くなっていた。次いで、1 人が 230 名(29%)、3 人が 138 名(17%)であった。4 人以上は 21 名であった。



2) 子どもの就学状況について(複数回答)

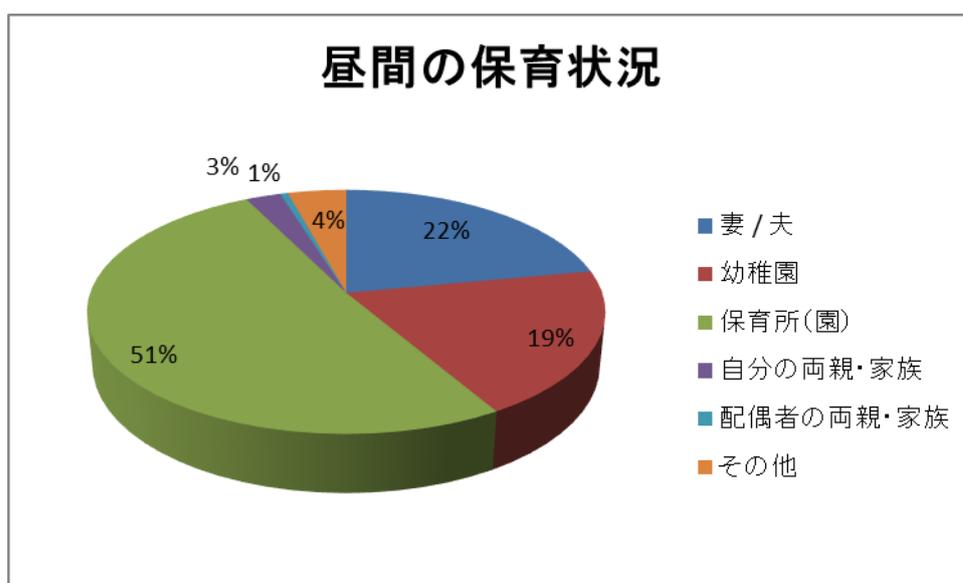
子どもの就学状況は、就学前、小学生および高校生以上が多かった。



3) 就学前の子どもの昼間の保育状況について

就学前の子どもがいる者に昼間の保育状況について尋ね、354名から回答を得た。

昼間の保育状況で最も多かったのは保育所（園）で、回答者の半数以上(51%)が保育所（園）を利用していた。妻または夫が保育している者が22%、幼稚園と答えた者が19%であった。



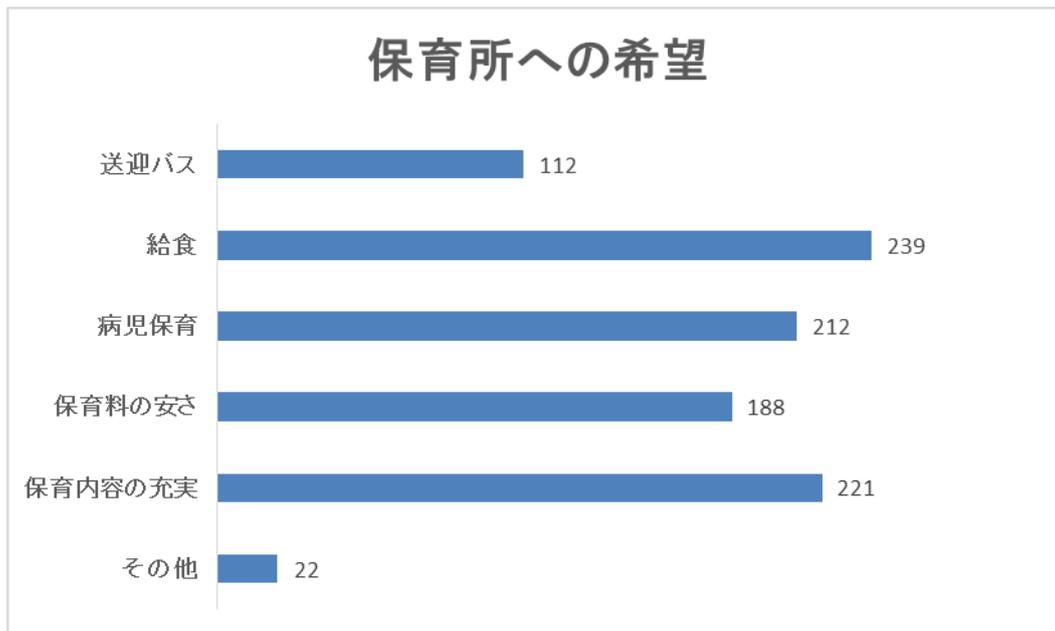
4) 保育所を利用する理由と利用しない理由について

保育所を利用する理由では、95%が「両親ともに就業しており、保育者がいないため」と回答しており、残り5%は「両親双方もしくはどちらかの体調不良、介護等の都合により、保育が困難なため」「単身赴任等で就業している片方の親と暮らしており、保育者がいないため」との回答であった。一方、保育所を利用していない理由は、「専業主婦等、片方の親が保育可能であるため」「祖父母等、両親以外の家族が保育可能であるため」であった。その他の理由は「幼稚園の延長保育を利用している」等であった。

5) 保育所についての希望（複数回答）

就学前の子どもがいる者に保育所への希望について尋ねた。

希望が多かったのは、給食(239名)、保育内容の充実(221名)、病児保育(212名)、保育料の安さ(183名)であった。送迎バスについても112名が希望していた。

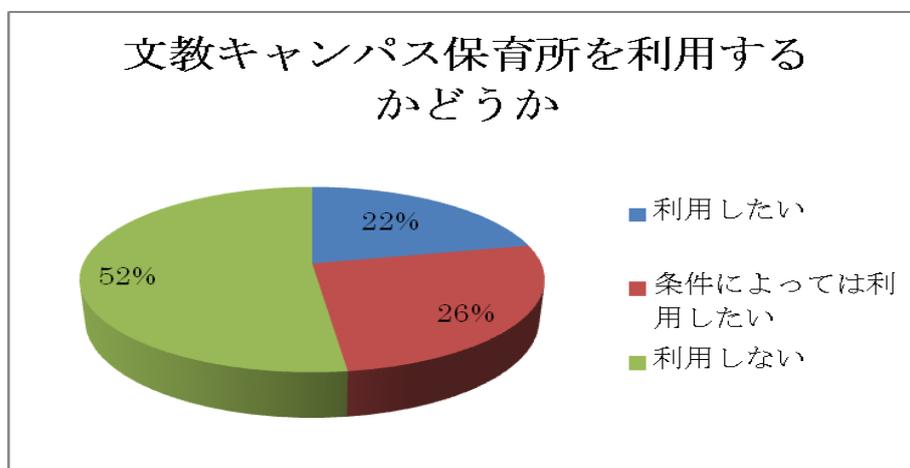


4. 文教地区保育所の利用等について

現在、子どもがいる者に文教地区に保育所が新設された場合の保育所利用の有無について尋ね、438名から回答を得た。

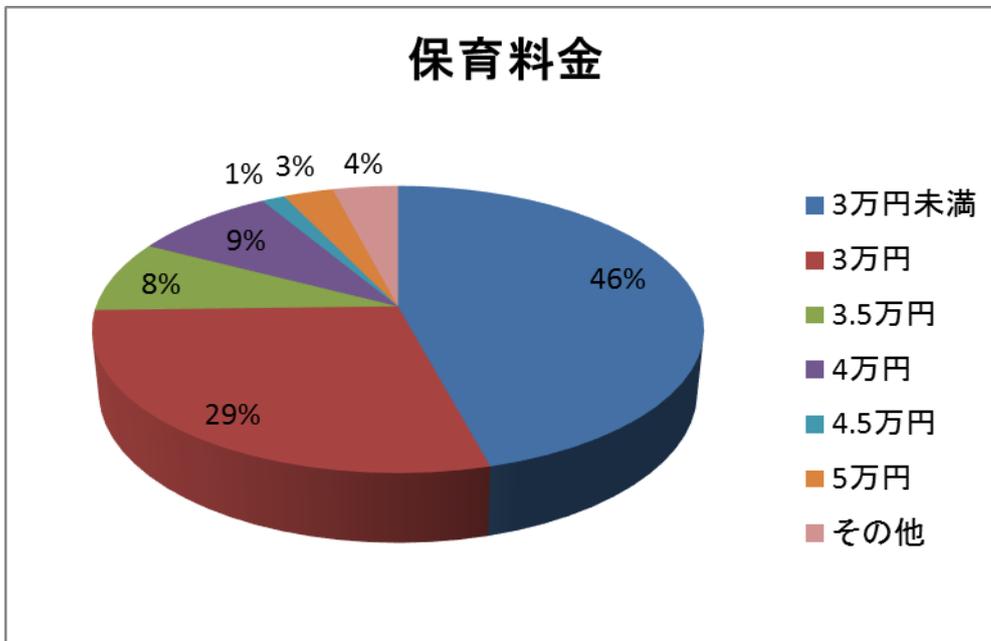
1) 文教地区に保育所が新設された場合の保育所利用について

文教地区に保育所が新設された場合、保育所を利用したい・条件によっては利用したいと回答した者が約半数(48%)あり、利用しないと答えた者が52%であった。



2) 月額保育料

文教地区に保育所が新設された場合の月額保育料では、8割近くの者が3万円から3万円未満と回答した。

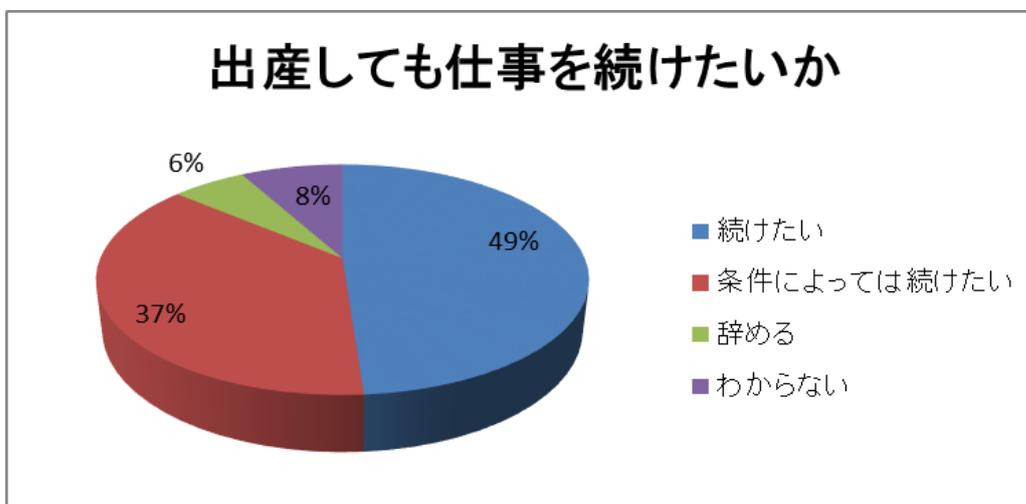


5. 出産後の仕事継続について

今後、出産を予定（希望）している者を対象とした。回答があった513名について分析した。

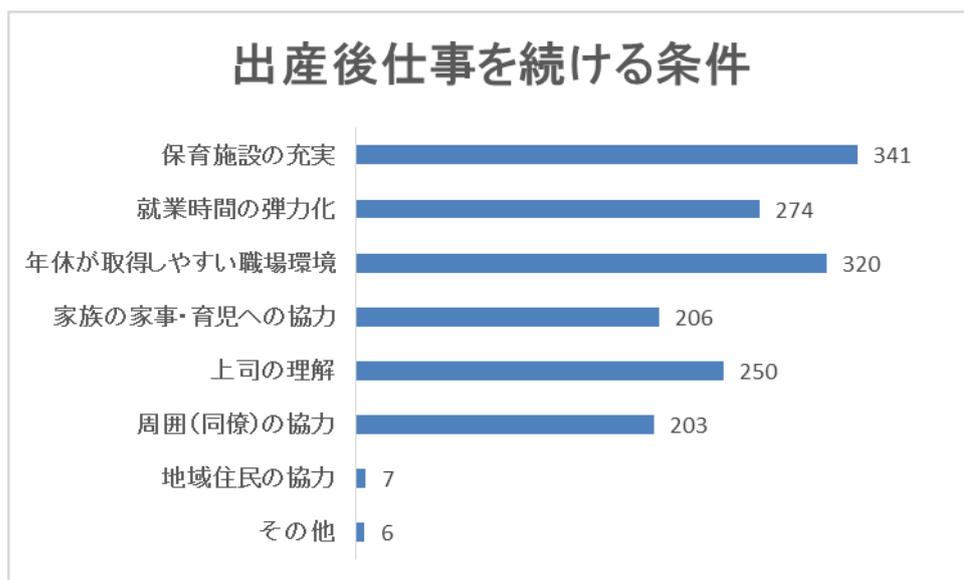
1) 出産後の仕事継続について

回答者の9割近くが、出産しても仕事を続けたい、条件によっては続けたいと回答していた。辞めると回答した者は30名(6%)と少なかった。



2) 出産後も仕事を続けるための条件について（複数回答）

出産後も仕事を継続する条件として最も優先度が高かったのは保育施設の充実(341名)であった。続いて、年休が取得しやすい職場環境(320名)、就業時間の弾力化(274名)、上司の理解(250名)であった。家族の家事・育児への協力(206名)、周囲（同僚）の協力(203名)と回答した者も多かった。



6. 保育所設置や保育支援に関するアイデア・意見等（自由回答）

保育所設置や保育支援に関して以下の記載があった。

●保育所設置に関して全般的な意見

- ・手続きのしやすさ、料金の公平さ、駐車場の広さ等可能ならとてもいいです。済生会病院の様に大学病院施設内だと安心であるし、どなたにもわかりやすいと考えますが如何でしょうか。教員の中には保育資格を有する人がいます。産休中に我が子とも一緒に過ごしながら働くことが出来ればと思います。労働条件は難しい点がありますが。
- ・大学病院の勤務状況に理解がある育児施設を望みます。自分や子どもが急な病気のときに延長しやすいのが一番と考えます。
- ・長崎市内で託児所を設けている病院で子育てをしながら働くお母さんの話を聴くとうらやましく思います。当院でも立ち上げてもらえたら、助かる親がたくさんいると思います。また、「イブニングシッター」がDr 対象というのは寂しいです。
- ・職員のニーズに応えられるよう設置すべきと思います。外国の大学では保育所は当たり前にある現状を考えると日本の大学は少し遅れていると感じます。
- ・私は北大病院から来ましたが、病院職員用に複数大学内に保育園がありました。対応が遅れていると思います。是非設置してください。
- ・若手研究者の採用を推進しているのであれば長崎大学のような総合大学は保育所を充実すべき。
- ・自分の子供が小さいときにこういう内容で困ったから今から子供を産む方のために設置してほしい。
- ・待機児童がいることは現実である為一つでも保育所が増えるといいと思う。
- ・保育所設置は喫緊の課題だと思います。ひいては日本経済の隆盛にも影響します。必ず必要だと思います。
- ・女性職員が多くなることを考えると安心して生活（仕事）が出来るよう保育所設置は必要だと思う。
- ・今子どもは成人しているが、過去、子育てをする時、子どもが病気になったり、保育園や学童保育の場がなかったりした時に、家族や親族、同僚の好意に頼るしかない状況があった。保育や学童の場が職場の近くにあることは、大変心強いことだと思う。再雇用のスタッフなどや、ハードな面では、教育の幼児教育や教育相談で使用しているところなど、うまく利用できないだろうか。
- ・これまでの経験等により、「職場内、若しくは近傍」に保育施設（含学童）等が存在する事は、本制度の推進と家族、ライフプランの充実、発展には効果があると考えます。
- ・以前、知り合いが経営する病院で、敷地内に保育施設を設置し、仕事と育児の両立をサポートしたところ、コスト以上にスタッフのモチベーションが上がったと言っていました。その通りだと思います。
- ・結婚しても安心して仕事を続けられるように、若いこれからの人達を支援してやってほ

しい。

- ・保育支援賛成。
- ・学内保育所設置をよろしく願います。
- ・保育所設置についてのアンケート自体遅すぎます。私自身子育てをしていた30年前程前から、保育所捜しは切実でした。30年ですよ！その間なにもされていなかったということです。それはともかく、せっかくの制度検討です。検討といわず、設置すべく早急に進めて下さい。これからを担う、若いお母さん方が、働きやすい環境を作して下さい。
- ・教育学部の学生の活用をしては。（保育支援等において）
- ・「男女参画」を本気で進めるなら、大学としての覚悟が必要。
- ・育児環境が整えば、当事者はもちろん、他のスタッフの方々も良いと思います。子どもの為とは理解していても、仕事の負担がかかるのは辛いものです。お互いが気兼ねなくできればと思います。取り組みは、とてもよいと思います。期待しています。
- ・出産・育児については確かに女性にとって重要なことですが、家族の視点から男性の意見も反映されればと思います。
- ・他のところに預けなくてよい状況になったら、もっと子どもを産んで働く人が増えるのでは。
- ・今から可能性がある者として、充実した制度があれば大変嬉しいです。よろしく願います。
- ・大学にとってのメリットがあれば、その範囲内で支援することをご検討ください。
- ・職場内に保育園と学童があれば子供が生まれても安心して働き続けられると思います。学童は一時預かりでもよいと思います。利用しやすい制度が良いです。
- ・女性教員30%の目標を掲げている以上、文教地区に保育所は必須である。文教地区に保育所がないと、私立、市立保育園かかる送迎や園行事の時間に費やされ、業務低下は必至と考える。
- ・2000人以上規模の事業所ならば、福利厚生の意味からも保育所の設置には積極的であることを望みます。また、アンケートの設問4,5の内容はかなり後ろ向きの印象です。私の経験では、30年来、同様の問い掛けが、働く女性に続いていることが問題のように感じます。関係の方々のご苦勞はあると思いますが、是非、良い保育施設を作られて出産や育児が仕事との両立の問題でなくなる状況になることを強く望んでいます。職場保育所については全国レベルでは大変にうまく機能している例が多くありますので参考にされるとよいかと存じます。
- ・個人的に子沢山の母です。今までパートに出た時は、保育所とか幼稚園の延長保育などを使いました。その中で友愛社会館幼稚園はすごく助かりました。設備よりも寄り添ってくださったので、何より親子で安心して通えました。少人数でも必要な人がいれば、対応してくださればありがたいと思います。職員ばかりではなく、学生さんの中にも必

要な人がいるかもしれません。

- 子供さんを預かる側の都合もありますが、預ける側のニーズにできるだけ応えてあげることが望まれるのではないのでしょうか。かといって、何でもOKということにはなりません。・・・
 - 心理士+保育士資格所有です。何かお手伝いできることがあればよいのですが。
 - 設置に伴い、「子どもがいても仕事をする事」について身近な事として考えられる機会があるといいなあと思います。
 - 他大学の例を調べてできる範囲で行えればよいと思います。
-
- 保育園の間は家内も緊急に休むことが可能な程度の仕事しか出来ませんでした。急に休む家内のバックアップを誰かがしてくれているので、自分も自分の職場で妊婦さんや小さい子供を抱えた人には優しくしようと思った。保育支援のひずみがどこかにかかっていることを組織が気遣ってあげなければ設置するだけではうまくいかない。
 - やたらと保育所に入れようとする今の風潮には反対。子どもと母親のつながりをもっと大切にすべきでは？ 子育てしたくないから、仕事をして子どもを保育所に入れようという人が多々見受けられる。
 - 保育支援は視点を変えれば、育児放棄を助長するとも考えられる。従って、過度な保育支援は必要ない。
 - 設置するとしても小規模なものにしかならないと思われ、ニーズに対して1、2割ぐらいしか応えられないのでは。予算はどうするのか、補助金はあるのか、大学の経費を投入するのであれば、多くの職員が充実できるような成果が出るようにしないとけないと思う。
 - 「仕事と家庭」とか「仕事と子育て」の前に、結婚する余裕もない程、大学院からずっと過酷です。でも全て乗り越え幸せです。メンタルなどのサポートも含めて、なにも必要ありません。ここに職を得ているということは、すべて乗り越え強くなっているからであります。支援が必要な女性は、ここまで来ないと思います。子育て中であったとしても、工夫して乗り越えます。文教に保育所が出来ても、片淵の人は便利ではありませんから。
 - 特にありませんが、保育所を一部の人のみ利用するだけでは意味がないと思います。
 - 昔は子育てを地域でおこなっていた。それが今は難しくなり、親の子育てにおける負担が大きくなっている事を問題視する話もある。大学という地域で、子育てに取り組むという事が一つの解決策になりうるだろうか？
 - 「設問4」のように「就学前の子がいる人」に限定してアンケートしても、若い意見のみでは？ これまでの子育て経験からの意見こそ重要と思いますし、何かよいアイデアが含まれると考えますが。

- ・授乳中の乳児の保育はあると良いかもしれないが、文教地区は夜勤があるわけでもなく、不必要。病院地区を手厚くしてあげてほしい。二人子どもを育てたが、民間の保育所でなんとかなってきたし、さほど不自由はなかった。なにより、校区のお友達が子どもには大事だった。親の都合より、小さい子どもの事を考えるなら、自宅近くの民間の保育所を利用すべきだと思う。
- ・就学前の子供と共に出勤できれば便利かもしれませんが。しかし、普段は自宅付近の保育所等に預けている場合、急な残業等のために夕方のみ職場の保育所に預けるといのは移動の手間等を考えるとあまり便利ではないように思えます。
- ・職場の併設保育園は同学年の子や地域のお友達が少なかったり、通勤が大変だったりといろいろとデメリットもあるように思う。よほど保育料が安くなければ実際利用する人も限られてくると思うので、現在行われている夏休み等の学童保育の門戸を広げる、一時保育を充実させるといった他のところが手薄なところを受け入れるやり方のほうがよいのではないかと思います。(難しいと思いますが・・・)
- ・設問4は、設問が不十分です。幼稚園+妻/夫(もしくは家族)という設問がなぜないのでしょうか？特に、長崎大学教育学部附属幼稚園は、週に1度午前保育を実施しているため幼稚園だけとは言い切れません。
- ・保育所設置は結構なことですが、例えば文教地区勤務の事務員がその保育所に預けていたい気持ちはあるが人事異動で他地区に異動になるケースもあることを考えると異動後に保育所を探す労力をかけるくらいならば民間に預け文教保育所を避けることもありえる。保育所設置にかかる人件費維持費等を勘案すると民間でできることは民間に任せて、その費用を保育手当として支援してはどうか。また、設問の仕方について設問2で学童保育を選択した場合次の設問の年齢が選べない。
- ・小さい子供達にはお母さんと長時間過ごすことが成長の過程上重要ですから、0歳から保育所に預けるのは私自身は反対です。むしろ、出来る限り長くお母さん達が産休を取れるようにすべきです。保育所は4歳～就学前、また小学校低学年の場合には大学内に学童保育があれば、お母さん方も安心かなと思いました。
- ・PTA活動や自治会活動の軽減。

●保育所設置に際して働き方に関する意見

- ・私の職場は子育てに対して理解があるほうですが、保育所をいくら設置しても気軽に休める環境、理解がない限り駄目だと思います。適正な職員配置、仕事分担、人間関係等、配慮が必要です。また子育て、育児休業、部分休業を取りながら頑張っている人は沢山います。異動や昇給など人事的評価に休業が影響するような状況では何も変わらないと思います。子育て支援、少子化対策をするなら子育てのほとんどを担っている母親の心を軽くしてくれるような支援が必要だと思います。病児保育のみで、他の目的では、3歳までの保育があればよいと思います。一番困るのが病気の時（インフルエンザや結膜炎、嘔吐下痢など）。
- ・育児休暇を2年くらいにしてゆっくり子供の面倒を見ることが出来るような環境づくりをしてほしい。その後就学までの子供を預けられる設備を作ってほしい。
- ・18：00以降は延長料金が加算される。残業がやむを得ず毎日が延長保育。もっと早く帰れる部署に配属させて欲しい。育短をとっても仕事が終わらなければ帰れない。夕方からの研修会も多い。
- ・働きやすい環境を充実させてほしい。
- ・男性の育休の義務化。
- ・女子学生や女性職員だけではなく、男性職員も自分の子どもを預けられるようにしたらいいと思います。
- ・「フルタイム勤務」を行う事が困難な場合は「短時間勤務制度」の利用を進める。勤務の配分をどのように行うのか等、業務体制や役割分担等についての検討が不可欠では？
- ・大学、学部、学科として、夕方や休日に会議や行事を入れない。
- ・保育所で働く職員をどうリクルートするかですが、退職された方にもお願いしてはいかがでしょうか。預ける方の、仕事のアドバイスなどもしていただけるかも。
- ・出産・育児中もこれまでの仕事を辞めずに継続して働ける職場環境が必要だと思う。今後出産を希望しているが、仕事を続けることで周囲に迷惑がかかるのではないかと、辞めた方がいいのではないかと悩むのが現実である。保育所設置が現実したら、多くの有能な働き手を失わずに済むため大学側にも大きなメリットとなるのではないだろうか。
- ・子どもを持つ母親が働きやすい環境を作ってほしいです。
- ・長大全体の仕事を減らすべきである。次に、教員数を増やすべき。事務の正社員を増やすべき。保育所体制を整えて男女均等に仕事をする環境を作るべき。子育てしている男性は残業して、女性は周囲からフォローされていることに、大変疑問を感じる。
- ・大学組織内での上下関係等が子どもの世界に持ち込まれることのないよう、配慮が必要になると思います。男性教職員の育児参加の点からは、育児休暇の分散取得（生後1年～2年の間で、最初の1ヵ月休み、次に半年後に1ヵ月など。今は連続取得なので）が可能な制度の検討が必要だと思います。
- ・学内に保育所ができ、そこを利用できると、副次的効果として教職員の適切な労働時間

管理にもつながり、事実上されているサービスの残業も子どもの送迎により減少していくと考えます。

- 保育支援に関して、小さい子供を育てている教職員に対して、仕事上の役割分担で職場に柔軟に対応してもらえる制度があったらよいと思います。
- 学外の保育所利用者への経済的支援は行われているのでしょうか？
- 職場として子育てできる環境を整えるべきだと思います。
- 保育所も設置してほしいですが、何よりもまず周囲（同僚）保育への理解と協力が一番必要だと思います。FD等でもっとその辺りに力を入れて欲しいです。

●保育支援の要望（同様意見他 16 件）

- 長期間勤務の時、仕事場に連れてきて夜の会議中別室で保育をする等、民間企業もあります。親の責任であることを明確にすればもっと柔軟な発想の支援ができるのではないのでしょうか。
- 認可保育所のように収入によって保育料が異なると、低所得でも利用しやすくなる。普段は一般の保育所に通っている場合でも病児・病後児保育の際にのみ利用できると有難い。
- 夜間保育を設ける。坂本あじさいに園庭がなく遊ばせられない。あじさいの入口は階段が狭く急なので、荷物と子を抱えては大変。男性の育児参加、休みやすくなるようにしてほしい。
- 食事がきちんと出してもらえる、病気時の対応が速やかに預かってくれるなど、困った時に、できると助かります。また、休日など一時的にも預かってもらおうと、休日出勤が助かりました。
- 病児保育、突然の飛び込みでの保育を受け入れてくれる施設があれば助かります。また、小学校低学年の短時間授業も困っています。
- 経験上、病気（軽い）になったときでも、保育園が預かってくれず、困った時がありました。姉妹だと一人が完治したらもう一人が発症し、一週間も休まないといけない時もありました。重い病気や感染する病気の時は大変ですが、微熱などの時は別部屋で預かってもらえると助かるなど。一日ではなく、半日だけでもそういう制度があればと思います。
- 何もない普通の時は、保育園が対応してくれる為、特に困らないが、急に熱を出した時の病児保育がなく、またあっても遠くや時間が遅く仕事は遅刻してしまう。24時間対応してほしい！！そうすることで、気にすることなく仕事ができる。（病児保育は、9時～18時までしかない為）夜勤だと、勤務交代もできず大変困る。家族では協力者も近くにいないため、夫婦でどうにかしている状況。
- 現在、保育園に入所しているので普段仕事の時は困らないのですが、病気の時預け先に困っています。病児保育（小児科の）に預ける事もありますが、朝、病児保育に預け

ると仕事に遅れるので、文教キャンパスに保育所（病児保育）があると、とても助かります。

- 2、3日連続で休むことが難しい状況にある方が多いと思うので、病児、病後保育の充実を図ってほしい。
- 買いもの代行等、家事の軽減。非常勤を代わりに雇用してもらい授業負担の軽減。

●保育支援の要望（料金や時間）

- 大学職員は安く利用できるようにしてほしい。病院の保育所は利用料が高すぎる。
- 金額を民間より安くした方がよい。
- 保育料が高すぎると利用しにくいです。
- 予約制でいいので、土日、夜間の一時預かりを希望します（学童を含む）。
- 病院にも保育所があるが、全員が利用しているわけではなく民間に預けている人が多い。保育のあり方や、人材の問題もあり、嫌がる人も多い。結構、金額も高いと聞いている。
- あじさい保育園のように、「○曜日のみ24時間」にせずとも、平日以外の希望の曜日（土日など）も、開設したらよいと思う。
- 19時くらいまでの延長保育があれば研究が少し楽になります
- 時間延長保育や、休日出勤への対応があるといいのではないかと思います。
- 料金について、市の認可保育園にならって兄弟半額・3人目以降は無料という料金体系にしてほしい。残業に対応するため20時までは延長保育をしてほしい（ライフワークバランスとはいいますが、実際には残業をしないと業務量は追いつかない）。
- おそらく教員は1校時目に講義がある場合を除いて朝は余裕があります。逆に、夜は遅くなりがちです。このような教員のニーズに対応して下さい。
- 夜間などまで可能な限り運営するなど利用の便を極力上げ、男女問わず小さいお子さんのいる親が本学に勤務するケースをフレキシビリティに支援してほしい。

●保育支援の要望（学童など、同様意見他5件）

- 0歳から学童まで預けられる施設があれば助かると思います。
- 学童保育をもう少し拡充するとよいと思います。普通は認可保育園に通っているとしても、何らかの事情でそこを利用できず困ることが時々あるので、そうしたときに頼れる先が無く不安を感じます。
- 学童保育を設置される場合、宿題のわからないところを教えてもらえるような学習面のサポートをしていただくと助かります。
- 利用費や給食など、働く親の負担を軽くするものでないと、せっかく設置しても利用する人が少ないと思う。夏休みの学童保育は、お盆前後一週間くらい休みだったので、仕事を一週間休まなければならないので利用しにくい。

- ・体力作りおよび、就学前にはある程度知識をつけるための教育（勉強）を行ってほしい。

●保育支援の要望（保育内容や教育学部利用など、同様意見他 5 件）

- ・スタッフの高齢者の家族、または定年退職者のボランティアを活用すること。
- ・欧米の大学では、教育学部の中に、幼児教育などの学科・コースを設け、教育と連動した kinder garden を持っています。総合大学である長崎大学もできる筈。
- ・大学らしいアカデミックな取り組みなどの特色があるといいかもしれません。
- ・現在ある長崎大学の施設（附属幼稚園等）や人材（教育学部の実習場所等）等を最大限に活用した形で長崎大学のオリジナルな保育所を設置する。
- ・今の保育所は英語教室、体育教室、水泳教室等にも力を入れており、運動会、お遊戯会も幼稚園に引けを取らないくらいの演技ができます。一時預かりであればそこは気にしませんが、恒常的に預けるのであればそこも考えます。

●保育設置場所などの要望（同様意見他 12 件）

- ・保育園につれて行く時は必ず車が必要なので、保育園はもちろん、その足で職場に行く人は職場の駐車場も使えないと保育園を利用する人は不便だと思います。
- ・学内に部屋を設置し、適切な人を外部からおく。
- ・以前、あじさい保育園に預けました。未満児の時は近くて便利と感じていましたが、園庭がない事や、手狭な環境なので、認可保育園に移りました。文教地区に作っても、環境を考えなければ、乳児園としか機能しないと思います。できれば学童にも力を入れてほしいです。
- ・他キャンパスの勤務者も利用できるように、キャンパス間の送迎などがあると良いと思う。
- ・作るなら送迎用駐車場があるところに作ってほしいです。坂本にあじさい保育園がありますが、皆さん路上駐車危ないです。
- ・保育所設置は文教宿泊所あたりがよいのでは。
- ・園庭があると、親としては嬉しい。
- ・1階駐車場・スーパー、2階小児科、3階病児保育、4階病後児保育、5階保育園・学童みたいな、総合ビル集合施設か街並みができたら、生活の動線が短く時間短縮できていいのかなと思います。

●保育所の運営方法などの意見

- ・年間の運営費と保育見込み児童数、長崎市からの助成など、大まかな数値を示しながら提案をしていただけると、関心が広がると思います。すべて自前するのが大変な場合は、外部の保育施設を利用する際の補助券発行なども有効と感じます。
- ・行政と連携するべき。

- ・必要性（需要）の規模と民間との比較、民間では出来ないことなど調査が必要。
- ・働きやすい環境を求める女性の声が多数ですので、30-40代の女性で子供が小さい人にとって延長や夜間は時折役に立つと思います。また、働き先と保育所が近いほうが直ぐに何かあったら会いにいけるので、なるべく近辺に設置することが出来ればと思う。
- ・附属幼稚園を拡充して一般市民の保育も受け入れすることが良いのではないのでしょうか。
- ・地域の見本となる保育所にして欲しい。大学関係が作る施設はサービス面が低いイメージがある。
- ・最初、初めての出産・育児を経験し、周囲の皆様のご理解、御協力があつてこそ働き続けられているのだと思ひながらも、やはり、仕事との両立に悩むことも多いです。産休・育休明けの女性教職員が日々の思いを語ったり、疑問を解消したりできる場があればいいと思います。例えば、休暇明けのセミナーなど、ネットワークを作る支援をしていただくと、職場復帰&就業継続がよりスムーズにいくのではないかと思います。
- ・あるかもしれませんが、学内に限らず、学外の方も利用できるようにしたいと思います。その他、保育支援に対する講演等もあれば、気軽に参加しやすいと思います。他、物などの寄付受付等もあればと思います。
- ・大学が直接運営するより民間にお願いした方が良く考えます。
- ・孫なども預けるのがOKだと助かる（若くして祖父母になり、勤務している人もいると思うから）。発達障害や、ママパパ同士の子育て、メンタルヘルスなどの講座もあるといいと思う。ママ同士のお茶のみ会もあるといい。携帯から預けの予約が出来るといいと思う。
- ・十分なニーズがあれば、敷地（可能であれば建物）を大学が提供し、公募により保育所経営者を求める。その際、運営に大学の意見を入れることができるようにする。
- ・現在のおもやいセンターの利用状況等（一時預かり利用状況）がどの程度あるのかを知りたいです。利用者が多ければ設置が必要かと思います。
- ・しっかりとした保育所を学内に設置する。
- ・長大の教職員として働いている方々は世間的に見ればとても恵まれていると思います。設置するならきちんとした保育所を作り、誰もが利用できるようにするべきだと思います。
- ・場所だけ提供して、運営は民間に委託してはいかがでしょうか。
- ・何事も、利用者目線をお願いします。
- ・ニーズが少なければ、社会貢献の一環として学外者に一部開放することを検討してはいかがでしょうか？
- ・年齢が高くなれば市中の保育園や、幼稚園へ移行するので、事実上年齢が低い子どものニーズが高くなるのではないかと思います。ただその場合は1：3の基準により保育士が多く必要にはなりますのでコストはかかります。継続的な予算が得られることが大事

かと思います。

- ・通常、していない保育の内容で「こんなだといいな。」を実現できるといいかもしれません。値段が安いとか、病児保育に看護師がいるとか。今、保育を必要な方の意見が現実味があると思いますが・・・。
- ・特色ある保育園ができるなら、多少費用がかかっても預けようと思う親は多いのではないかと？ 市中の保育園の実情を実地見学・調査すべきと考えます。
- ・活動内容の Web 発信や交流サイトの開設など子育てを支援する情報発信の拠点となることを期待します。

●文教地区以外の保育所設置の要望（同様意見他 12 件）

- ・坂本地区に 24 時間対応可能な場があればよいと思う。
- ・病院のあじさい保育園がすごく良いのですが、園庭が無いのが難です。敷地があれば園庭ありの施設とし、あじさい保育園を移設し、坂本キャンパス⇄病院のバスを運行していただけるとすごく良いと思います。
- ・病院があるので、夜勤が存在する職場なのでそれに対応できるものでないと効果は半減すると思います。それと同時に病院があることをいかせる保育所だと魅力（看護師常駐若しくは連絡するときでもらえるなど）。
- ・大学よりも、大学病院内に保育施設を作ることを優先したらどうか？ 大学病院には、女医・看護師など、より子育て施設を必要としている人が多いと思う。
- ・出産前の夜勤の調整が必要ではないでしょうか。産休直前まで夜勤をさせる病院は聞いたことがありません。このような勤務条件では、継続は難しい。
- ・時間が不規則な病院には学内保育所は必須です。早く実施を。
- ・病院スタッフです。坂本地区保育所は、病院スタッフ対象なのに夜間受け入れシステムが不十分。延長料金設定システムももう少し検討が必要。病児保育は必須！！だと思います。病院スタッフが少ないと問題視しているなら、病児・病後児保育は絶対に有益だと思うのですが。毎回アンケートを実施し、意見を求める割に、その意見を反映する、もしくは改善する対策が見られないのがとても残念です。
- ・病院の保育所をもっと多くしてほしい。
- ・病院受診中の一時預かりを作してほしいです。
- ・現在、病院に勤務しているスタッフの多くが近くの無認可保育園に子どもを預けています。狭い部屋に、いも洗い状態の保育環境で子どもたちが遊んでいます。無認可保育園であってもある程度、認可保育に準ずるスペースでの保育を望みます。
- ・文教だけではなく、他のキャンパスでの検討も必要だと思う。保育を望む人たちは、文教だけではない。

【考察・まとめ】

長崎大学全教職員（休職者等を除く）4164名を対象に、平成25年10月15日～10月31日に、「長崎大学内保育所設置検討のためのアンケート調査」を実施し、1894名（男性740名、女性1154名）から回答を得た。回収率は45.5%であった。

673名（回答者の35.5%）が文教地区に保育所新設が必要と答えており、必要でないと答えた者101名（5.3%）を大きく上回っていた。また、文教地区に保育所が新設され場合の保育所利用については、現在子どものいる者の約半数が利用したい・条件によっては利用したいと答えていることから、保育所設置に対する教職員のニーズは高いと思われる。

一方、今後出産を予定（希望）している者の9割近くが、出産後も仕事を継続することを希望しており、多くの者が仕事を続ける条件として保育施設の充実を挙げていた。現在働いている長崎大学教職員が、出産後に離職することなく継続して仕事をしていくためには保育施設の充実は不可欠と思われる。

前回の調査（2011年7月19日～29日）では回答者が179名と非常に少なかったが、保育所設置に対する教職員のニーズは非常に高いものであった。今回の調査でも同様の結果であったが、今回の調査は前回と比較して回答者数が10倍以上に増加して（回答者1894名：回収率45.5%）の調査結果であり、教職員の意識を広く反映した結果であると言える。

保育所新設に対する長崎大学教職員のニーズは高く、ニーズは今後さらに高くなっていくと思われる。長崎大学は、学内保育所設置について早急に検討をはじめべきである。